1. Project Title

W: 私(わたし) は ウィル ・ ウルフキエル です。

3. Significance of Study

W: そこでこのような認識(にんしき) の違(ちが)いはなぜ、どのように生(う)) まれたのか研究(けんきゅう) を したいと考(かんが)えました。また、こういった認識(にんしき) が日本(にっぽん) と アメリカ の社会(しゃかい) にそれぞれどのような影響(えいきょう) を あたえているかも、調(しら)べてみたいと思(おも)いました。

7.America Pre War on drugs 1/3麻薬戦争(まやくせんそう) 前(まえ) の アメリカ の、米国(べいこく) の麻薬史(まやくし) として、まず 1611（りょぴゃく）年(ねん) に麻 栽培(あささいばい) がすでに始(はじ)まっていました。

医学的(いがくてき)な研究(けんきゅう) は 1860年(ねん) ごろから始(はじ)まり、また 1889年(ねん) に アヘン中毒(ちゅうどく)や慢性的(まんせいてき) な中毒(ちゅうどく) を治(なお)す為(ためたいま) 大麻(たいま)を使(つか)うことがありました。

そして、徐々(じょじょ)に大麻(たいま)は マリファナ の麻薬(まやく)により関連付(かんれんづ)けられていきました。(could consider skipping this part)

1936年(ねん) に マリファナ に対(たい) する否定的(ひていてき)な見方(みかた)を した「リーファー ・ マッドネス」という映画(えいが)により、米国(べいこく) の社会(しゃかい) は マリファナ に対(たい) する意見(いけん)が代(か)わり、1937年(ねん) に マリファナ税法(ぜいほう) が可決(かけつ)されました。(could consider skipping this part)

8. America Pre War on drugs ⅔

1900年代 初頭 に マリファナ の利用者は一般的 ではありませんでしたが、マリファナ は メキシコ人 の出稼ぎ労働者 や黒人 の ジャズミュージシャン の コミュニティ で人気になったと言われていました。(could consider skipping, this part is covered by bullet 3)

しかし、これは、米国 の マリファナ に対 しての認識 が メキシコ系 の人 々) や黒人 の人 たちへの偏見 に影響 したと考 えられます。

1916年 に ランドルフ ・ ハースト は マリファナ や麻 繊維に対 して行ったキャンペーン の中 で「マリファナ を吸っている メキシコ人 や アフリカ系 アメリカ人 が白人 にたいして失礼 で、女性 を レイプ したりする」や「ジャズ は マリファナ がもたらした悪魔の ブードゥー」などという人種差別 の発言 を しました。

ACLU によると、白人 の マリファナ利用者が少 ないという証拠 がないにも関 わらず、アメリカ の黒人 の マリファナ所持の逮捕数 は白人 と比 べると ３．７倍 で、ニューヨーク州 の ラテン系 アメリカ人 の逮捕数 は ４倍 と非常 に高 くなっています。

9. America Pre War on drugs 3/3

1960年代 から 70年代 の初頭 まで マリファナ は ヒッピー や ボ へ ミアン の文化と関 わり、マリファナ の使用率が増え社会 の意見が変わってきました。そして、1977年 に カーター大統領　の政権 は公　に ３０ g 以下までの マリファナ の合法化を唱 えました。

(Can skip carter stuff)

20. American Education ½

1983年 に ロスアンゼルス で青少年　の薬物 乱用 に対応 して薬物乱用 防止教育　D.A.R.E という プログラム が始 まりました。(D.A.R.E, 2019)米国 の学校 で麻薬教育　に関 する クラス が少 なかったため、D.A.R.E は早 くに全国 の プログラム として広 がりました。 この プログラム は「悪影響　がある麻薬について特定 の情報　を教 えること を強調　しました。D.A.R.E の設立 後 ファーストレーディナンシー ・レーガン の「ただ ノー と言おう」の偶発的 な発言 は全国 で麻薬の教育　を支 える キャンペーン として親 と学生 組織に広 められました。

21. American Education 2/21986年に、ナンシー・レーガンは「麻薬の無いアメリカの組織」と言う反麻薬運動を樹立しました。マリファナは「ゲートウェイドラッグ」と呼ばれ、マリファナは中毒性が高いなどと教えました。しかし、これらの主張は医学的根きょがありませんでした。他の調査によると、D.A.R.E.や「ただノーと言おう」のキャンペーンは、若者が麻薬を試したい気分をよくせいしたという証拠がありません。

25. Survey Results Part 1次に研究結果についてお話ししたいと思います。研究質問 1 は、「日本とアメリカにおけるマリファナに対する一般認識とはどのようなものか」でした。

26. Marijuana user image

まず、社会のマリファナ使用者に対するイメージとは何かと聞いたところ、日本の回答者の最も多かった答えは「危険」で、アメリカの回答者は「自由主義者」と答えました。

27. Sleep analysis

次に、睡眠の質に関する意見について聞いたところ、アメリカの回答者と日本の使用者はマリファナは睡眠の質を向上させると思っていますが、マリファナを経験した事がない日本人は睡眠の質を向上させると思っていないという事がわかりました。

28. Addiction

そして、中毒性に関する意見についてですが、アメリカ人と日本人のマリファナの使用者は、マリファナは中毒性が低いという答えが多かったですが、日本人でマリファナを経験した事がない回答者は中毒性が高いと考えているようです。

29. Part 1 Summary of Findings

ここで、研究　質問 1 の結果のまとめです。
日本 の マリファナ を経験 した事 がある回答者　も無い回答者　も、
社会 の マリファナ使用者に対 するイメージ は危険だという事 がわかりました。この理由で考　えられることは日本 の マリファナ の イメージは大麻と マリファナ だけではなく、脱法 ハーブ も含 まれているからかもしれません。
60年代 の アメリカ の対抗 文化運動 に影響　を受けて、アメリカ ではマリファナ使用者に対 するイメージ は自由主義的になりましたが、日本ではまだそのような運動 もなく、マリファナ の使用に対 する考　え方が保守的だと言えるでしょう。
アメリカ の回答者　と日本の使用者は マリファナ が中毒性　が低 いと答 えたましたが、日本の マリファナ を経験 した事 がない人 は中毒性　が高 いと答 えました。

最後に、ご指導くださった先生方　と支 えてくださった友達 に感謝 をいたします。本当 にありがとうございました。